

事業所理念及び支援方針

◎カラフルの療育で大切にしていること

カラフルでは、こども達の成長のあゆみは、一人一人違うのがあたりまえと考えています。この“あたりまえ”を大事に、小集団の中でそれぞれのあゆみに合わせてあそびを通じて発達支援を行っています。あそびは、子どもの発達の原動力です。また、健やかな発達を促すには「安心」が不可欠となります。そして、安心できる環境において、こども自身が「これなあに?」「やってみたい」「自分も」と心惹かれるあそびを体験し、「できるかな」「気持ちを受け取ってくれるかな」「なんで?」など、心揺れる思いを経験し、活かして行くためには「好きな大人」「おともだち」の存在が欠かせません。当然ですが、歩けるようになるのも、ただ運動機能面の発達だけではなく“あのおもちゃが欲しい”“お母さん、お父さんの所のところに行きたい”などの気持ちの高まりがあってこそ。指差しやジェスチャーで要求を伝えることができたり、話したりするのも、ただジェスチャーやことばを覚えることができることでコミュニケーションの力が育つわけではありません。“来てほしい”“見てほしい”“これできたよ”など、「一緒にいて楽しい」と思える大人の存在などがあることで、子ども自身の心が動くことが出発点です。このように、その子にとって特別ではなく、よりよい育ちにとって自然で必要な環境を職員一体となって保証し、チームで展開しているのが、カラフルの療育です。

◎支援プログラムを活かしていくために

保護者の方々や相談支援事業所、通園先、保健師さん、医療関係者など、お子さんに関わっている関係機関からの情報と実際のお子さんの様子などを通じ、客観的な視点での発達の状況や支援の見立てを行います。また、その見立てを基に作成した個別支援計画に沿って、毎回の療育前 療育後のグループ会議を通じ、日々の子ども達の成長の変化に合わせて支援します。

営業時間	8:30 ~ 17:30	送迎実施の有無	有り
------	--------------	---------	----

本人支援

※「児童発達支援ガイドライン(5領域)」をベースに取り組んでいます。

健康・生活	<p>「おいしかったね」「すっきりしたね」「きもちよかったです」</p> <p>登園時の身辺整理やおやつやクッキングなどを通じ、洋服を脱いだり着たり、おやつを食べたりなど、それに伴う姿勢や体の動きや手指の動作など、大人とほぼ一対一の関わりの中で丁寧に積み重ねて、「できたね」と喜びと共に生活動作の獲得を目指します。食事や睡眠、排泄への支援も、個々の発達や感覚や特性などもあり自立への道はそれぞれです。その子自身が生きていくために不可欠な食べる、寝る、出すなどで「あ~、おいしかった」「ぐっすりねれた~」「ああ、すっきりした」と感じて過ごせるよう、ご家庭と連携を取りながら進めていきます。</p>
-------	---

運動・感覚	<p>「やってみたい」「さわってみたい」「できたよ！」</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動面では、個々の発達に応じて「やってみたい」「～まで」と目的を持って、体や手指を動かせるようなあそびや活動を設定します。広い園庭や遊具を利用しての活動や、室内で巧技台などあらゆるものを使って行います。巧技台の活動では、毎回違う設定になっており、こども達も意欲をもって取り組めます。 感覚面では、全身で感じるダイナミックな刺激から、風や泡のような繊細な刺激まで、こどもたちの感じとり方に合わせて あそびを通して様々な感覚を楽しみながら感じられるよう 無理なく活動に取り組みます。 <p>様々な外部からの刺激を受け取る入り口となる感覚は、発達に大きな影響を与えています。生きづらさに通じる側面もあるため、安心して自分から「触ってみたい」とあそびに参加できることを保証し、楽しめる感覚を広げていきます。</p>
認知・行動	<p>「これなあに?」「わかった♪」「なんで」「どうして」</p> <ul style="list-style-type: none"> 認識面では、その子が興味を持つこと、関心があることや生活の中で自然に触れるものを通じて、知っている物事を広げられるようにしていきます。例えば「先生が持っているあれ、なんだろう」「お友だちがもっている折り紙の色はなんという色なんだろう」「みんなで6人だから、お皿は6個だね」など「気持ち」「ことば」「道具、動作」など関連づけて覚えていくように支援します。 行動面については、気持ちや願いを適切に伝えて行動できるように、そのときどきで感じる気持ちに合わせて、個々にあった表現ができるように支援します。衝動的に行動してしまうお子さんに対しても、その特性を全員で把握し、怪我のないように見守りながらも「そうしたかったんだね。こうしたらいいよ。」など、環境との調整を図りながら、適切な表現や手立てを学べるように支援し、不適切な表現の減少を図ります。また、お子さんの特性や発達の状況の理解により“叱られ続ける” “指摘され続ける”などのことがなく「自己肯定感」を高められるよう、ご家庭や集団生活の場と連携しながら環境整備に努めます。
言語・コミュニケーション	<p>「伝えたい」「伝えてよかった」を大切に</p> <p>「カラフルの療育で大切にしていること」にも挙げたように「伝えたい」という気持ちが湧きあがってくるような経験や「伝えてよかった」という相手との出会いが必要となります。ありのままを受けてもらえる環境の中で、安心してあそび、その時々の感情や願い、場面に沿ったことばやジェスチャーなど、発達や特性に合わせて獲得できるように支援します。様々なあそびを通じ、モデルを示す、代弁を行う、時には絵やさまざまなコミュニケーションツールを使うなどし、人と共通の話題やイメージを持ってコミュニケーションが図れるような力を育てていきます。</p>
人間関係・社会性	<p>「人を好きになる」「人に期待する」… 人を求める心を大切に</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間関係においては「人を好きになる」「人に期待する」など「人を求める心」が高まるように関わり、愛着（アタッチメント）の形成・安定を目指します。また、そのような大人との信頼関係の中で「人を支えにすること」ができることで、自分一人では出せなかつたような力を発揮することができます。自分自身を知るということにも繋がります。このような豊かな人間関係を形成するための大変な基礎的な力を育てていきます。 社会性では、大人を支えに5~6名ほどの小グループで活動を行います。小単位で行うことで、あそびや様々な活動もよりこども自身にフォーカスされた環境になります。その中で、ルールの共有や約束、順番など理解が難しいお子さんも、大人を支えに「理解して参加できる」ことができます。また、グループのメンバーが決まっていることで、お互いをより意識しやすく、好きな子や苦手な子、あこがれの子などへの出会いもあります。小単位の中で「できた」「できなかった」「勝った」「負けた」「悔しかった」などさまざまな経験を通じて、自分を知り、信頼している大人を支えに安心して自己主張したり、「助けを求めることができる」などの大事な力も育てていきます。

家 族 支 援

こどもの育ちや発達の基盤となる家庭でのお子さんの様子や親御さんの育児など、困っていることなどがないか、細やかに連携を図り、いつでも相談ができるようにしています。また、親御さん向けの学習会や、クラスごとの親の交流会、予約などなしで相談できる「いいタイム」先輩お母さんとの交流会、親子ふれあいあそびなども通じ、さまざまなお子さんの育ちや親御さんの悩みなども耳にし、1人で悩むことがないようにしていけるように設定しています。また、ペアレントトレーニングも開始し、お子さんへの理解や家庭においての育てへの支援も行います。

移 行 支 援

入園や入学時に、学校や新しく利用を開始する福祉サービスなどへスムーズに移行できるよう、お子さんの情報や有効であった手立てなどを伝え、環境の変化なども踏まえた個々に応じた支援が継続して行われるよう支援します。

地 域 支 援 ・ 地 域 連 携

お子さんの通園先や学校、児童クラブ、地域のスポーツ施設や福祉サービス、関係機関と情報、支援方法など連携を図り、個別支援計画の作成や見直し、現状の課題などの共通理解などを図り、地域においても家庭が安心して子育てができるように連携を図っていきます。

職 員 の 質 の 向 上

療育活動前に支援に入る職員全員でねらいや個々のこどもへの支援方法や手立ての確認を行い 療育活動後には グループ会議を通して 疑問に思ったことや支援の方法などを共有し話し合いを行っています。また 子どもの現在の発達に沿って 半歩先の支援を行うための発達を見る目や客観視するという力を獲得できるよう 事業所内研修を行ったり 外部の研修にも積極的に参加することで 職員一人一人の技術の向上を図っています。また 職員が保育士資格を取得するための取組の一環として 試験のための学習会を事業所内で実施しています。

主 な 行 事 等

保護者の学習会、親子遠足、親子心れあい療育、保護者の交流会（先輩お母さん方を招いて）、グループ別交流会、避難訓練など
療育活動の中では 季節の行事に合わせて 凧あげ、節分、ひなまつり、子どもの日、水遊び(海水浴、プール)、クリスマス、季節の散歩 等 を通じて こどもたちがその時々の季節を体感できるような支援を行っています。